

志木市議会議員 無所属

天田いづみの議会だより

市議会・まちづくり情報



〒353-0006 志木市館1-1-2-108

Tel/Fax:048-471-1338

E-mail: amada@ff.e-mansion.com

天田いづみのホームページ <http://www.ff.e-mansion.com/~amada/> 第46号 2012年9月

志木市の高齢者福祉は？

(1) 地域包括ケアシステムの構築と

今後の介護保険制度の方向について

和光市では、介護保険制度を国民健康保険(医療費が増大し市町村財政を圧迫)の二の舞にはならないという職員の危機感のもと、10年前から全国に先駆けて介護予防に取り組み、要介護認定率が下がり、要支援1・2についても減少するなど、効果を上げています。

介護保険事業計画策定にあたっては、圏域別・要介護度別に認知機能・障がい程度・住宅の状況・寝たきり度等を分析し、独自の介護予防事業や住宅政策に反映しています。

また、市が主催して毎週コミュニティケア会議を開催し、地域包括支援センター・ケアマネジャー・サービス事業者・社会福祉協議会等、個々のケースに応じて多様な関係者が集まり、各ケースの検証・評価・改善を行っています。

志木市では、要介護状態の主たる疾病の、1位は脳血管疾患、2位は認知症で、それぞれ22～23%ですが、要介護5では、認知症が42.7%となっています。

2020年度からは、65～74歳の前期高齢者よりも、75歳以上の後期高齢者が右肩上がりが増えていきます。

志木市では、特に要支援1・2が5年間で2倍近い伸びとなっており、重度化をを防ぐことが重要です。

市では、要支援1・2でサービスを利用されていない方が3割程度いることに着目し、要支援高齢者元気回復事業として、市内3か所の高齢者あんしん相談センター(地域包括支援センター)それぞれのアイデアを活かした介護予防を検討しており、地域の実態に即した事業展開が望まれます。

3月議会で長沼市長からは「地域毎の実態を把握した介護予防策の実施の重要性については私も認識しているところであり、それは必ずしも実現できていないというご指摘については真摯に受け止めている。

地域包括ケアシステムについては、24時間対応の訪問介護・訪問看護の定期巡回・随時対応サービスなど、30分以内に駆けつけることができるようなサービスの推進が必要と認識している。



カフェ・ランチルーム志木四小(2012.2.9)

本市では、介護予防事業や健康づくりのきっかけとなるよう、元気いきいきポイント制度やカフェランテールーム志木四小等の介護予防事業の取り組みなどを図っていく。」との答弁がありました。

元気いきいきポイント制度等については、地域で活動している方々から様々なご意見をいただいていますので、今後は地域福祉をどのようにすすめていくかの観点も併せて取り上げていきます。



(2) 認知症予防について

私は従来から東京都老人総合研究所の認知症予防プログラムの研修にも参加し、世田谷区等で効果が立証されている認知症予防プログラムについて提言してきました。

このプログラムの特徴は、元気な方も虚弱な方も一緒になって、ウォーキングや料理、小旅行の計画作りからグループで楽しく、活動できることです。

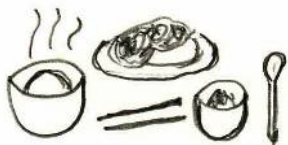
活動の前後には認知機能の検査を行い、参加者は効果を自覚し、意欲をもって取り組むことができます。

中村健康福祉部長からは「認知症予防に対する施策は重要と考えている。新たな認知症予防プログラムや既存の認知症予防事業の拡充など、閉じこもり防止を中心とした事業を実施していきたい。

カフェ・ランテールーム志木四小などの介護予防事業により、新たなコミュニティづくりの創出の場を提供し、高齢者の引きこもり防止など、認知症予防の一端となることを期待している。加えて、認知症対策の必要性について、市内の開業医などと情報共有に努めていきたい。」との答弁がありました。

志木市でも、2011年度は試行的に取り組み、半身まひの方も、包丁は持てないけれど片手で押えてはさみで切ることによって、自分にはできないと思っていたお料理が出来たと、大変喜ばれていたということです。

2012年度は全市的な展開が期待されます。



■ 子育て支援について

(1) 「気になる発達や行動」を示す子どもへの支援

じっと話を聞いてもらえない、多動など、発達障がいと認定されていなくても、育てにくさを感じる子ども達の育児について、保護者は不安を抱えているのではないのでしょうか。

従来から、1歳半・3歳児検診で気になる子どもについては、保護者へのサポートも含めて健康増進センターや子どもと家庭の相談室で長年取り組んできました。

小学校からは教育サポートセンターを中心に特別支援教育プログラムとして取り組まれています。就学前の保育園や幼稚園での取り組みも必要と考えます。

2012年度志木市では、子育て支援センターを中心に、小児科専門医や臨床心理士などの専門スタッフによる相談体制を充実するとともに、月1回程度、「おひさま広場」を開催するということです。

子育て支援センターに伺ったところ、大勢の子どもの中では保護者も気を使われる。「おひさま広場」では、安心して遊ばせながら、保護者同士も情報交換したり、専門のドクターに相談に乗っていただいたりしていきたいというお話でした。

今後は関係機関が密接に連携を取りながら、志木市として保育園・幼稚園でどのような支援をしていられるのかを一緒に考え、取り組んではどうか提言しました。

中村健康福祉部長からは、「保育園だけでなく、幼稚園、各子育て支援センター等、関係機関との連絡や情報交換をしつつ、利用される保護者のご意見等を踏まえつつ、多少なりとも育児不安の軽減につながるようなシステムを構築していきたい」との答弁がありました。

特に幼稚園・保育園と小学校の連携を重視して進めることを求めました。

(2) 志木市としての一貫性のある保育

2012年秋には下宗岡2丁目に民間の認可保育園「志木どろんこ保育園」(定員90人)、認定こども園(仮称)おおのみち保育園(0～2歳児 30人)が開園し、公立・民間保育園合わせて1,100人程度を受け入れることができるようになります。

民間の良さを生かしながらも、市全体としてサービスの質を高めていくには、市のマネジメント、コーディネート機能が重要です。

市有地を活用した民間の認可保育園「ステラ志木宗岡保育園」を視察しましたが、ステラ志木宗岡保育園からも市内3校の小学校に子どもたちが入学予定であり、その3校すべてに子どもたちを連れて見学に行かれたとのこと。

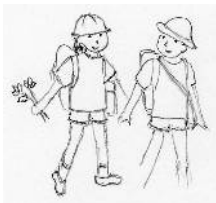
志木市では、民間の認可保育園も園長会に参加し、情報交換を行っているとのこと。今後はさらに、発達障がい等への支援や幼稚園・保育園・小学校の接続等の課題もあります。

公立・民間を問わず、同じ志木市の子どもたちとして、市内小学校に進み、学童保育等のサービスも受けていくようになります。

市として、教育委員会との連携も含めて、しっかりと統括し、志木市としての一貫性のある保育をし、幼稚園とも連携しながら教育につないでいくことが大変重要です。

中村健康福祉部長からは、「志木市の保育に対する考え方を理解していただくため、公立と私立の全園長による連絡調整会議を開催する中で情報交換などを行い、お互いに切磋琢磨することで保育の質の向上につながるものと考えている。

今後も、子ども一人ひとりを大切にされた保育を推進し、子育てと仕事の両立支援と、就労希望者の潜在的な保育ニーズに対応するために、民間の認可保育園とも情報を共有しながら連携し、引き続き待機児童ゼロをめざしていきたい。」との答弁がありました。



■ 緑の保全(公園等の管理)について

市内の貴重な緑地が市の公園として保全された西原ふれあい第三公園斜面林・いろは親水公園こもれびのこみちの斜面林において、樹木を丸坊主にしてしまうような強剪定が行われています。

天田いづみは従来から、市として緑地の管理方針を定め、住民からの要望等があった場合でも、市の方針に基づいて対応してはどうかと提言してきましたが、定められてきませんでした。

志木市では、こもれびのこみち斜面林は地権者からの寄附により、西原ふれあい第三公園は土地区画整理事業の事業計画変更により保全されました。

特に、土地区画整理事業の事業計画を変更してまで緑地を保全したという事例は全国的にも例がなく、長年にわたる土地区画整理組合や地権者、行政関係者等の大変な努力とご苦労あつてのことです。

また、けいおうふれあいの森については、2002年に慶應志木高校が売却したマンション建設用地の自然環境の保全について、自然再生条例の「事業者が自然の保全及び再生に自ら努めるとともに、市の施策に協力する責務」に基づき、近隣住民・環境市民団体・市が連携して開発者側と交渉し、斜面林・大イチョウ等が保全されたものです。一部は市の公園(ぼんぼこ公園)として保全され、マンション敷地内の一部はけいおうふれあいの森として市が借地、市民団体による月1回の斜面林手入れ作業にはマンション住民も参加しているそうです。

このように、志木市では緑の基金を創ったものの、積立もままならない中、市総合振興計画や緑の基本計画、自然再生条例等に基づき、市民・議会・事業者・行政の総意により、市の財政負担を伴わずに緑地の保全がはかられたことについては評価するものです。

一方、自ら汗して用地買収したものではなく、財政負担も伴わないからといって、緑地保全の主旨

や経緯が引き継がれず、形骸化してはならないと考えます。

原田都市整備部長からは「このたびのご指摘を踏まえ、一定の目的や具体的な剪定方法を定めた指針を策定していきたいと考えている。今後はこうした指針等に基づき、適正な維持管理に努め、市民と協働しながら緑の保全と自然と調和した快適なまちづくりを進めていきたい。

今後は、2001年に策定した志木市緑の基本計画の施策や取り組み状況の進行管理等について適切に対応していきたい。」との答弁がありました。

緑の基本計画(2001～20年)については、策定以降、緑被率の調査もされていません。

1989年の緑被率(農地を含む)は約36%、1999年には約31%、現在はさらに減少が見込まれます。

本来、計画の見直しも必要と考えますが、行政の継続性からして、せめて緑被率の調査は行うべきではないか提言しました。



■ 環境を守る取り組みについて

(1) 自然再生条例について

市営墓地拡張工事(2009～10年)において、事前に公共事業に関わる自然再生の手続きをとらずに工事が始まり、私たちが指摘し、それから現地の立会いをしたり、保全のための手法を一緒に考えたりしてきました。

事業の担当課は自然再生条例を所掌する環境推進課でした。

2009年9月末にやっと志木市環境市民会議自然保全再生部会の立会で現地調査を行い、代償措置としてわずかばかりの緑化がはかられましたが、失われた面積に比べ1/10程度で、代償というには程遠いものです。

何よりも、条例の担当課からしてこのような状況ということに危機感があり、市としての考えを質しました。

抜井市民生活部長からは、「2010～11年度においては対象となる事業がなかったことから適用事

例はなかったが、今後も自然再生条例の基本理念に基づき適正に取り組んでいきたい」との答弁がありました。

市の職員の中で、工事があった場合に代償措置を講じるのが自然再生条例なんだと矮小化してとらえられているのではないかと。対象となる工事がなければ関係ないと思ってしまうと、全く条例の趣旨と違ってしまう。

樹木一本を伐る、あるいは緑地の管理にしても条例の趣旨は、先ず第1番目が、「保全」、どうしてもやむを得ず出来ない場合に、その影響を最小限に留める「最小化」、それもどうしてもできない場合に初めて「代償」ということになるので、関わるすべての職員が条例の基本理念を踏まえて、日常の業務に反映することを求めました。

(2) 環境基本計画について

今年度に入ってから、志木三小の保護者の方からご意見をいただきました。

学校だよりでエアコンが入るということを初めて知った。東日本大震災以降、より一層の省エネルギー等、環境に配慮していかなければならない中で、エアコンをつける前にもっとできることはないか。緑化や子どもたちと涼しく過ごすための工夫を楽しくしてみるなど、先ずはみんなで知恵を出したり工夫したり出来ないだろうかとのご意見でした。

そして、環境を守っていくためのプロジェクトがあれば、自分も参加して出来ることをしていきたいとのことでした。

そもそも、第二期志木市環境基本計画(2009年3月)の策定にあたっては、そのように環境に関心のある市民に、この指とまれ方式で参加していただけるようにとの考えで始まったのです。近隣市では、部会形式で市民の創意工夫を活かした活動を主体的に取り組んでいました。

ところが、志木市では、環境基本計画の進行管理もストップしています。計画の進行管理のための環境市民会議が最後に開かれたのは2010年7月、これも行政が計画を見直してから一度も開かないので、市民から言われてやっと開いたもので、その

後定期的に開催するとのことでしたが、それ以降一度も開かれていません。

やはり基本的なことについてはしっかりと取り組んでいくべきと考え、市民生活部長に質しました。

抜井市民生活部長からは「計画策定から4年目を迎え、計画中期に差し掛かることから、これまでの取り組みについての検証と後期に向けても取り組みの確認を行うなど、計画目標の達成に向けて関

係機関及び関係団体と連携を密にし、適切な計画の推進を行っていきたい。」との答弁がありました。

環境市民会議には計画案の策定・推進だけでなく、自然再生条例に基づく自然保全再生計画の進行・管理及び公共事業の検証・評価に関することも位置づけられており、しっかりと開催して具体的に行っていくことを確認しました。



● 天田いづみの活動日誌(主なもの)

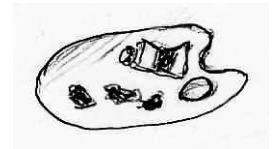
- 2012年1月8日 消防出初式、消防団退職団員感謝状贈呈式
13日 第1回あったかの家ケアセミナー「介護施設における介護・看護の看取りのあり方」ケアホーム西大井こうほうえん施設長 田中とも江(看護師)さん
14日 天田いづみのティータイム
23日 全員協議会「志木市立病院の現状と方向性について」
28日 道路整備への住民意見反映について市民と懇談
2月1日 脱原発1000万人アクション志木の会 第1回交流会
2日 柳瀬川浚渫工事、自然への配慮について立ち会い(朝霞県土整備事務所)
4日 太陽展・・・宗岡中瀧口教諭よりひまわり学級での専門教科教師による授業について伺う
8日 市民病院改革委員会 第1回会議
9日 カフェ・ランチルーム志木四小視察
16日 放射能情報交換埼玉県志木 オフ会
18日 放射能汚染から子どもを守るために大切なこと 肥田舜太郎さん(5年後10年後子どもたちが健やかに育つ会・志木)
19日 「健聴、難聴、そして今ろう者」宮田和実さん、手話落語「聾訪」大喰亭満腹さん(志木市聴覚障害者の会、志木市社会福祉協議会)
20日 環境推進課、教育委員会学校教育課との話し合い(5年後10年後子どもたちが健やかに育つ会・志木)
いろは子育て支援センター「ぽっぽ」視察、新井所長より「おひさま広場」等について伺う
21日 西原保育園、西原子育て支援センター「まんまある」視察、白川園長より保育園・小学校の連携等について伺う
朝霞地区一部事務組合議会臨時会
共に語り合う集い(志木市精神保健福祉ボランティアグループ「ゆうあい」)
市民病院改革委員会 第2回会議
22～3月19日 議会定例会
25日 食べて知るゴスペル(志木おやこ劇場)
26日 第2回地区防災訓練(東の森壱番街自主防災会)
「ケアする誰もが地域で孤立しないために」日本女子大学教授「ケアラー(家族など無償の介護者)連盟」共同世話人 堀越栄子さん(志木市手をつなぐ育成会)
28日 ステラ志木宗岡保育園視察、関園長よりお話を伺う
3月3日 コーロ・クラベリートス20周年記念コンサート ピーチフェスティバル
4日 総合福祉センターまつり
5日 保育ママ・ステーション視察
志木四小 三好校長より、小中連携について伺う
志木二中 田村校長より、小中連携について伺う
6日 子どもと家庭の相談室相談員より「気になる発達や行動」を示す子どもへの支援について伺う



- 7日 立候補予定者説明会
- 8日 全員協議会「市民病院改革委員会の最終報告書について」
- 15日 志木二中卒業式
- 22日 志木二小卒業式
- 24日 志木二中吹奏楽部定期演奏会
- 26日 朝霞地区一部事務組合議会
- 30日 アフターファイブ(21しき市民会議5期)定例会
- 31日 いきいきサロン作品展
- 4月1日 さくらフェスティバル フリーマーケット(志木市コミュニティ協議会)
- 8日 市議会議員選挙告示
- 8~14日 市議会議員選挙 選挙運動
- 15日 市議会議員選挙投票日
- 16日 当選証書授与式
- 21日 天田いづみの選挙反省会
- 26日 議会臨時会
- 27日 志木四小視察、三好校長より教育活動について伺う
- 5月2日 志木四小もくせい会 定期総会
- 9日 環境に配慮した学校管理について市民と懇談
- 10日 志木市役所庁舎の耐震化説明会(市民会館)
- 12日 環境デー クリーン作戦
- 13日 志木おやこ劇場 子どもまつり(NPO 法人エコシティ志木)
- 14日 看護の日イベント(柳瀬川駅西口駅前広場)
- 16日 放射能情報交換埼玉県志木 オフ会
志木小 星場校長より校長研究協議会について伺う
- 17日 志木二小 磯校長と懇談
- 18日 西原第3ふれあい公園 電線より出火 立会
- 20日 志木市役所庁舎の耐震化説明会(西原ふれあいセンター)
NPO 法人エコシティ志木総会
- 21日 志木市の高齢者福祉について市民と懇談
- 23日 教育委員会教育総務課、学校教育課との話し合い(5年後10年後子どもたちが健やかに育つ会・志木)
- 26日 かざぐるま日本語教室視察(志木四小地域活動支援センターにて)
東日本大震災復興支援 オンガク食堂によるしゃべくりコンサート(癒しスポット提供委員会)
- 28日 志木市の防災について 生活安全課 坂本勝成さん(志木市手をつなぐ育成会)
- 29日 志木三小 林校長と懇談
放射能への対応について市民と懇談
- 30日 館1丁目歩道縁石安全対策、道路照明灯について立会(道路公園課)
志木市役所庁舎の耐震化説明会(総合福祉センター)
- 6月1~21日 議会定例会
- 3日 身近な川の一斉水質調査(NPO 法人エコシティ志木)
- 6日 就労継続支援 B 型シンフォニーを訪問・・・新座団地商店街店舗で NPO 法人シンフォニーとして
自立支援法により活動
- 10日 志木市役所庁舎の耐震化説明会(柳瀬川図書館)
第2回東日本大震災チャリティーコンサート(志木から東日本へ元気を送る会)
- 11日 放射能への対応について、子ども医療費について市民と懇談
志木小 星場校長と懇談
志木中 齋藤校長と懇談
- 12日 宗岡二小 久保校長と懇談



- 16日 新「いこいの家コンクリヤ」落成式、施設内見学
 24日 オール志木ウインド第14回定期演奏会
 28日 志木地区衛生組合議会
 市議会臨時会
 29日 よつば保育園視察
 初夏のバザー(チェルノブイリの子どもたちのためのグループ・カーリーナ)
 30日 志木おやこ劇場創立20周年記念公演 ひのき屋トラベリングバンド IN 志木
 7月3日 教育サポートセンター前田所長より 困難さを抱える家庭へのサポートについて伺う
 6日 映画「かすかな光へ」、話し合い(志木おやこ劇場)
 アフターファイブ(21しき市民会議5期)定例会
 9日 子ども医療費について、放射能への対応について市民と懇談
 12日 どんぐり防災交流サロン(東の森壱番街自主防災会)
 14日 齋藤素翠 手習い半世紀展
 18日 宗岡二小視察、久保校長と懇談
 22日 「内部被ばくを生き抜く」DVD 上映会(「内部被ばくを生き抜く」上映会実行委員会)
 23日 志木市教職員研修「ソーシャルスキル」かえつ有明中・高等学校カウンセラー 池田聡子さん
 24日 要保護児童対策研修会「児童虐待ゼロに向けて～精神疾患の理解・保護者への対応と子どもへの支援～」越谷心理支援センター 齋藤修司さん
 25日 志木二小 磯校長と懇談
 志木四小 三好校長と懇談
 宗岡三小 古思校長と懇談
 宗岡小 岩澤校長と懇談
 26日 志木二中 田村校長と懇談
 宗岡二中 飯田校長と懇談
 27日 朝霞地区防犯協会定期総会
 宗岡四小 平田校長と懇談
 28日 市民病院について市民と懇談
 29日 市民と議員の条例づくり交流会議2012「自治法改正を使いこなせ！」片山善博 前総務大臣
 他、「計画・評価と議会」
 31日 宗岡中 湯本校長と懇談
 環境市民会議について環境推進課と話し合い



■ 救急医療情報キットの活用を

私は従来から、緊急時に備えて緊急連絡先や服薬状況等を冷蔵庫に保管し、救急隊等による安否確認に活用することを提案してきました。

志木市では「救急医療情報キット」として、本年3月から配布が始まりました。

救急医療情報キットは、「かかりつけ医」・「健康保険証(写し)」などの情報を専用容器に入れて冷蔵庫に保管しておくことで、病気や事故等の緊急時に救急隊員が駆け付けた際、救急活動に役立てるものです。

対象は65歳以上の独り暮らしの方(約3000人)、家族がいても日中・夜間一人になる方、同居の方

が介護を受けたり入院されている方です。

本人または代理の人が市役所高齢者ふれあい課、志木駅・柳瀬川駅前出張所、高齢者あんしん相談センター(柏の杜・せせらぎ・ブロン)で申請書にて申し込みとのことですが、独居で虚弱な方が出向いていくのは大変です。

現在では、高齢者あんしん相談センターやケアマネジャーが高齢者宅を訪問する際に必要に応じてキットをお渡ししたり、自主防災組織が配布に協力している地域もあるそうです。

9月からは、高齢者の実態調査のために民生委員が73歳以上の高齢者世帯を訪問しますが、そ

の際にも、キットの申請に協力いただけるとのこと。

志木市では昨年度1000、今年度840作成しましたが、受け取られたのは現在400程度とのことでした。

地域で声を掛け合い、いざという時に一人でも多くの命を救うことができるように、救急医療情報キットの活用を進めていきましょう。

■ 災害時要援護者台帳を見直し

現在は災害発生時にしか利用できない災害時要援護者台帳ですが、当初から提言してきたように、日常の地区防災訓練や見守り活動にも活用できるよう、また、台帳登録者の更新が行われるよう、見直しが進められています。

6月議会では、埼玉県緊急雇用創出基金約1000万円を活用し、民間事業所に委託して登録対象者への周知や、データの入力作業を行うとのことでした。

市民福祉常任委員会では、個人情報取り扱い、事前の町内会や民生委員等への周知、趣旨をわかりやすくマニュアル化するなどしてよくよく徹底し、混乱を生じないように求めました。

担当は生活安全課ですが、実際の申し込みは高齢者ふれあい課、福祉課になります。

特に、高齢者の実態調査に関わる民生委員、高齢者あんしん相談センター等との協議・連携をしっかり行うことを要請しました。

■ 4年間 よろしく願いいたします

いつものように「天田いづみの議会だより」を一軒一軒自分の手で配りつつ地域を歩きながら、市議会議員選挙の告示を迎えました。

今回も選挙カーは使わず、普段の活動と同様に歩きと自転車で、辻々に立ち、街頭演説で地域毎の課題と政策をお話しました。4期16年間、様々な課題に天田いづみとともに取り組んできた市民の方々が、入れ替わり立ち替わり一緒にまわって下さいました。

家々の陰からひっそりと顔を出して、じっと街頭演説を聴いて下さる人々の姿から、声にならない市民の想いを感じました。

選挙を通して寄せられた、街の皆様お一人ひとりのおもいを、天田いづみはしっかりと受けとめさせていただき、今後4年間活動していきます。

結果として2152票(1位)をお寄せいただき、心より感謝申し上げます。

議会では、従来通り一人会派(リベラル市民21)です。市民福祉常任委員会の委員長、志木地区衛生組合(志木市・新座市・富士見市でゴミを共同処理)の議員となりました。

改選後の6月議会では、白砂正明教育長の教育委員としての再任の議案が取り下げられるなど、厳しい現実でした。社会全体の変化の中にあっても、大切なものを、日常の中で伝え合い、思いを共有していく努力が重要と感じました。早速、出来ることから取り組んでいます。

7月1日から尾崎健市教育長となりました。天田いづみは小中学校12校をそれぞれ訪問し、課題を伺いながら、より一層子どもたちを守るため、家庭にも、教育現場にも、適切に支援が行き届くよう活動しています。

志木市ではどの市長の時代にも、市政や教育に関してその時々自分の考えをしっかりと現わしていく市民によって、大きく方向性を誤ることなく来られたと思っています。

どうか皆様からも、疑問・質問や率直なご意見をお寄せ下さい。



ティータイム

10月8日(月)

午後 2:00~4:00

柳瀬川図書館2階視聴覚室

志木の中で身近に感じていることなどを

気軽にお話しませんか？

**** これまでの活動とその成果は！！ ****
天田いづみのホームページでご覧下さい